

# 岡山県総社市における ひきこもり支援について

総社市



そうじゃ

# 総社市について

(平成17年3月、1市2村が合併)



令和3年7月1日時点

人 口	69,700 人
世 帯 数	28,977 世帯
面 積	211.90 km <sup>2</sup>

## 《総社市の地勢的特徴》

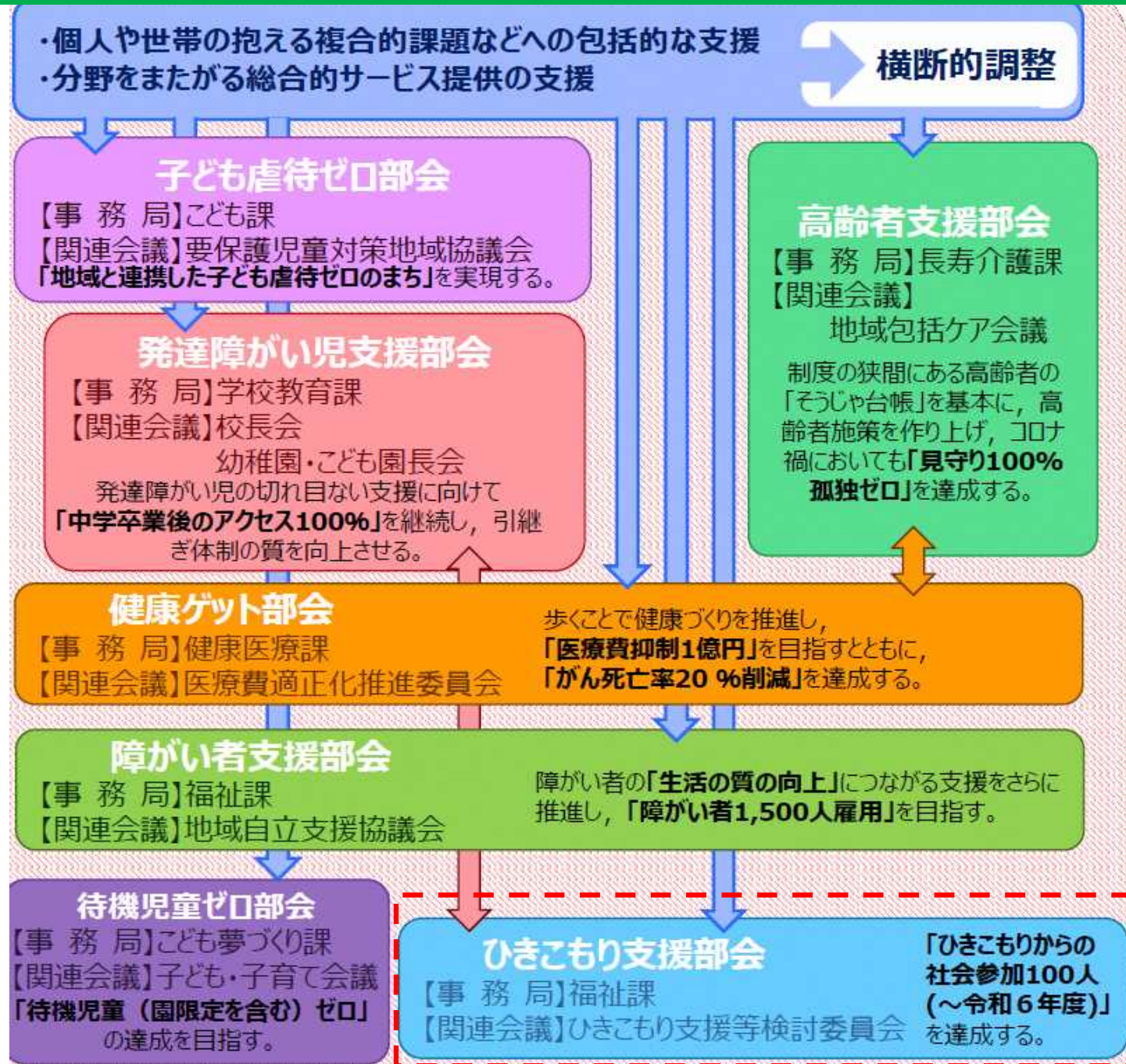
- 人口流入が多い岡山市，倉敷市と隣接した岡山県の南西部に位置
- 気象条件は  
気温：平均 16.5℃前後  
雨量：年間 1,000<sup>mm</sup>前後  
瀬戸内海特有の温暖少雨の地域
- 2/3が森林地帯
- 人口は微増傾向



# 「全国屈指の福祉文化先駆都市」を目指す枠組み

## 福祉王国プログラム を策定

2021



# 総社市での「ひきこもり支援」の経過

## 検討の契機

- ・ 社会福祉協議会において、障がい、生活困窮、権利擁護に関する相談を推進する中で「ひきこもり」と思われる方の存在を確認
- ・ 実態把握、専門的支援の必要性を課題ととらえる



## 検討開始

### H27.8 ひきこもり支援等検討委員会を設置

- ・ 市の関係部署や社会福祉協議会のほか、ハローワーク、医師会、民生委員児童委員協議会等の地域の関係者で構成
- ・ ひきこもりの定義・理念を明確化し、ひきこもり支援施策を検討・創設

### H28.1~9 市内17地区で懇談会・実態把握

- ・ 民生委員、福祉委員との問題意識の共有・醸成
- ・ 市内に少なくとも200名ほどのひきこもりがいるとの結果



具体的な支援の実施へ

※ 総社市では、ひきこもりの定義を「中学卒業後であって、おおむね6か月間以上、社会から孤立している状態」として支援。



# 総社市での「ひきこもり支援」

## ひきこもりの予防（義務教育の段階での取組）

- 派遣登校支援員による長期欠席の児童・生徒の状況把握と分析・整理
- 中学校卒業後も必要に応じて相談できる支援体制を作るため、不登校状態にある生徒・保護者に対して、卒業前に四者面談を実施



## ひきこもり支援（中学卒業以降の社会からの孤立状態への支援）

総社市では「ひきこもり」を地域社会の課題としてとらえ、平成29年度から市の独自事業として支援を展開（委託により社会福祉協議会が実施）

- H29.4 ① ひきこもり支援センター「ワンタッチ」開設
- H30.2 ② 常設居場所「ほっとタッチ」開設
- H30.8 ③ ひきこもり家族会「ほっとタッチの会」設立
- R3.4 ④ 2か所目の 常設居場所「ほっとタッチぽえむ」開設



令和2年度の事業費：1,950万円（支援センター人件費、サポート養成、居場所設置等）

※2年度は、このうち500万円を国庫補助により手当て（ひきこもり対策推進事業）

# ①ひきこもり支援センター「ワンタッチ」の開設

## 専門の相談員（社会福祉士）による訪問・電話・メールでの相談対応

総社市社会福祉協議会では、ひきこもり支援センターのほか、生活困窮者支援センター、障がい者基幹相談支援センターなど横断的な総合相談支援体制（精神保健福祉士による応援等）を構築。

※実績は平成29年4月～令和3年6月の合計



総社市  
**ひきこもりワンタッチ支援センター**  
あなたのことを忘れていません  
あなたと一緒に考えます  
相談専用  
☎ **92-8597**  
E-mail: [soudan@sojasyakyo.or.jp](mailto:soudan@sojasyakyo.or.jp)

**ご本人へ**  
ひきこもりの方の多くが焦いや不安を抱えています。自分で答えが見つからないときは、まずご相談ください。一歩踏み出すあなたと一緒に考えます。

**ご家族へ**  
誰かに話をすることで気持ち楽になり、一緒に考えると、問題の整理ができます。ご家族だけでもご相談ください。

- 専門の相談員が、対応します
- 相談の内容についての秘密は守られます
- 相談は無料です

社会福祉法人 総社市社会福祉協議会  
**ひきこもり支援センターワンタッチ**

- **実相談者数 354人** ※男性：72%、女性：28%  
(10代：79人、20代：68人、30代：72人、40代：61人、50代：30人、60代以上：18人)
  - ・ 本人接触による相談 132件 (対面114件、電話13件、メール5件)
  - ・ 家族接触のみによる相談 118件
  - ・ 民生委員からの相談 38件

- **延べ相談件数 14,907件**
  - ・ 訪問 3,003件
  - ・ 来所 6,086件
  - ・ 電話 4,951件
  - ・ e-mailなど 867件



- **社会参加実人数 57人**
  - ・ 定期的居場所利用 (12人)
  - ・ ボランティア体験 (介護施設6人、地域の農園1人)
  - ・ 就労 (19人) 短期就労 (6人) 福祉的就労 (5人)このほか、地区社協行事への参加、進学、復学など

## ②常設の居場所「ほっとタッチ」の開設

市役所・社会福祉協議会のそばの一軒家を借り上げ、  
ひきこもりの支援対象者が訪れる常設の「居場所」を開設



専門職、ひきこもりサポーターが寄り添い、社会参加に向けて少しずつ支援

### 「ひきこもりサポーター」の養成

- 市民を対象とした「ひきこもりサポーター」の養成講座を実施
- 居場所「ほっとタッチ」等での支援は、専門職に加え、「ひきこもりサポーター」の力をかりて実施（R3.6末の登録者数75人）





### ③ひきこもり家族会「ほっとタッチの会」の設立

#### ひきこもり当事者が家族にいる人たちを対象とした当事者組織



#### 【活動日時】

- ・ 毎月第3木曜日13：00～15：00

#### 【活動内容】

- ・ 情報交換や親睦
- ・ サービス等の情報交換
- ・ 勉強会や研修会など

#### 【年会費】

- ・ 1,000円



- ひきこもりについての理解を深めながら、家族間で交流を図る
  - リフレッシュできる場をつくり、ひきこもり家族の「孤立」を防ぐ
- 現在、13家族が加入



# ひきこもり支援の具体的な事例

## ケース1：50代後半の男性

### 【支援開始前の状況】

- ・ 離職・転職を繰り返し、対人関係から退職。約4年間、ひきこもり状態。

### 【支援内容】

- ・ センター職員が週1回の自宅訪問を繰り返して相談支援を実施。
- ・ 少しずつ、センター職員らと一緒に福祉施設のボランティア活動を体験。

### 【結果】

- ・ その後、センター職員も同行しながら求職活動を行い、就職。
- ・ 今では地域の清掃活動やお祭りにも参加。

## ケース2：20代後半の男性

### 【支援開始前の状況】

- ・ 中学時代にいじめにあって不登校となる。その後、約15年間、ひきこもり状態。

### 【支援内容】

- ・ 多重問題を抱えた家庭環境で、市・社協・保健所が連携して自宅訪問により支援。
- ・ 特に、経済的な問題が大きく、ひきこもり支援センターと生活困窮支援センターが連携。

### 【結果】

- ・ 経済的な安定を図るため、生活保護の受給を開始。
- ・ ひきこもり支援の居場所「ほっとタッチ」に定期的に来所。
- ・ さらに、本人と同様にひきこもり状態にあった兄弟も、一緒に来所できるようになってきた。

# 「全国ひきこもり支援基礎自治体サミット」を開催

- 令和元年8月、ひきこもり支援に積極的に取り組む市長を集めたサミットを開催。
- 基礎自治体が「ひきこもり支援」を行う意義・必要性を全国へ発信した。

## 全国ひきこもり支援基礎自治体サミット — 全国ひきこもり支援フォーラムinそうじゃ —

日 時： 令和元年8月26日（月）12：00～15:30

場 所： 岡山県総社市（岡山県立大学講堂）

プログラム：

- 全国首長サミット

5市長（総社市、安中市、豊明市、守山市、宇部市）によるサミット宣言

- 基調講演

中央大学法学部教授 宮本太郎氏

「包括的支援と多様な参加によるまちづくり 試金石としてのひきこもり支援」

- フォーラム

当事者団体、家族団体、企業、国、支援機関、報道、学識の各方面の関係者が議論



# 市町村によるひきこもり支援の事例（岡山県総社市）

参考

- 体制**
- 個別相談から見えたひきこもり事例から「ひきこもり支援等検討委員会」を設置し、実態調査・分析・検討の上、ひきこもり支援センター設置。設置後も検討委員会は継続し、センター運営・計画・推進・予算執行・規定制定等について審議。
  - ひきこもり支援センターは、市社会福祉協議会が受託して実施。市社会福祉協議会では、ひきこもり支援センターのほか、生活困窮者支援センター、障がい者基幹相談支援センターなど横断的な総合相談支援体制を構築。
  - ひきこもり支援センターでは、属職員2名（精神保健福祉士・社会福祉士）が、電話、来所、訪問等で相談対応し、関係機関、地域と協働支援を展開。
- 取組**
- サポーター研修・サポーター定例ミーティングを実施し、活動を共有。当事者・専門職・サポーターによる居場所設置を企画し、空き屋を活用した居場所を設置。
  - 当事者家族を対象に家族会「ほっとタッチの会」を設立（当事者組織）。居場所を利用し月1回活動を実施。
  - 検討委員会にて、支援者養成WG・事例検討WG・社会参加WGをそれぞれ開催。

## ひきこもり支援センター「ワンタッチ」設置と運用までのプロセス

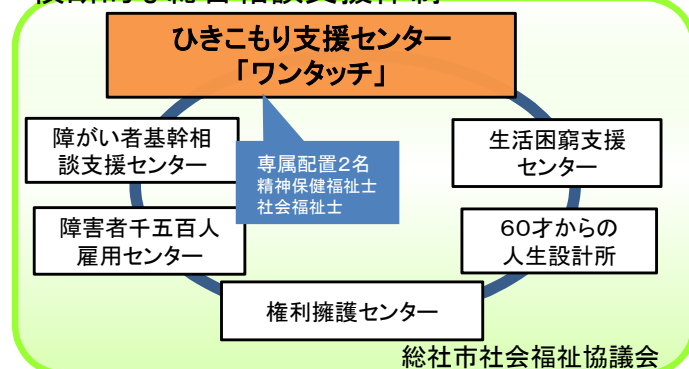


人口：69,052人（平成31年4月末時点）

【調査方法】地区懇談会において民生委員・福祉委員に調査票を配布。担当地区でひきこもりが疑われる者の人数を記載してもらい回収  
【把握人数】207人

○相談件数  
（平成30年4月～平成31年3月）  
電話：766件 訪問：518件  
来所：855件 その他（メール、手紙）：190件

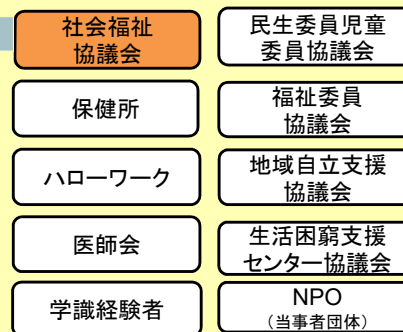
### 横断的な総合相談支援体制



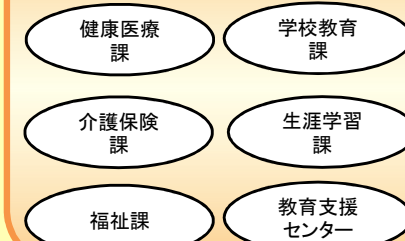
ひきこもり支援センターの運営、計画、推進等にかかることを一体的に検討

- ・個別支援事例について協議検討
- ・サポーター養成講座等の企画
- ・就労体験、ボランティア体験、中間就労、生活支援サービスなど多様な社会参加の形態創出を検討
- ・市内社会福祉法人連携検討

### ひきこもり支援等検討委員会（2ヶ月に1回開催）



### 市役所



○ひきこもりサポーター養成講座  
全5回講座／年  
当事者・家族・民生委員・福祉委員・ボランティア・大学生など  
○サポーターフォローアップ研修  
フリースペース見学や専門家による研修  
○サポーター定例ミーティング  
活動を共有、あらたな発見等につなげる

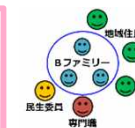
○居場所開設  
相談支援で関わる事例からイメージした「居場所」を当事者・専門職・サポーターを交え企画実施  
空き屋を活用し「居場所」設置



○家族会「ほっとタッチの会」設立  
当事者家族を対象に、ひきこもりについて知識理解を深めながら交流を図る。「居場所」を活用し、毎月1回活動している。



○地域との協働支援事例  
・民生委員から、家族（3人）が、ひきこもり状態で近所づきあいがなく庭木が伸びて近所が困っている、挨拶しても返事がないとセンターに相談  
・地域包括支援センター、民生委員と繰り返し訪問し、地域住民との関係ができ、庭木の剪定ができた。





# 財務状況（委託料内訳）

## ■ 事業（委託）内容

- (1) 相談支援窓口の設置に関する事 … ワンタッチ運営
- (2) サポーター養成に関する事 … サポーター養成講座等
- (3) 居場所の設置, 運営に関する事 … 居場所（ほっとタッチ, ほっとタッチぽえむ）運営
- (4) 実態把握に関する事 … 実態調査等
- (5) 社会参加及び就労への支援に関する事 … 専門職2名（社会福祉士等）による個別相談受付・支援
- (6) 関係機関との連携に関する事 … 支援等検討委員会

## ■ 社会福祉協議会への委託料

- ・ H29年度 12,000千円（すべて単市）
- ・ H30年度 17,499千円（すべて単市）
- ・ R 1年度 17,543千円（国庫補助 2,127千円, 県補助 631千円, 単市 14,785千円）
- ・ R 2年度 18,204千円（国庫補助 ※5,000千円, 単市 13,204千円）
- ・ R 3年度 19,367千円（国庫補助 ※5,000千円, 単市 14,367千円）

↳ 生活困窮者就労準備支援事業費等補助金（ひきこもり支援推進事業）  
※R2年度から2,500千円→5,000千円に増（人口規模による段階方式）

## → 委託料内訳

- ・ 大半が人件費（職員2+臨時1）… 約12,000千円
- ・ 居場所の運営費（借家借上料, 光熱水費等）… 約1,600千円/1カ所
- ・ 支援検討委員会委員報酬, サポーター養成講座等講師謝礼, サポーター活動費等… 約1,000千円